

第5文型について

では、第5文型を検討しよう。

前回まで検討した**第3文型**は、第4文型に変形させたり、また第3文型+Mに戻したりと、**第4文型と相性が良かった。**

これに対して、今回検討する第5文型は、**第2文型**と相性がいい。なので、第5文型を検討する前提として、先に**第2文型**を検討しよう。

第2文型は

S (主語)

V (述語)

C (補語)

から成り立つ。

この C (補語) というのは、第2文型においては、

主語に対する補語 という意味だ。

主語に対する補語 というのは、要するに、

S (主語) = C (補語)

が成り立つという意味である。

以下、例文を使って検証していく。

例文①

This is a pen. (これはペンです)

この文を見ると、This (これ) = a pen (ペン) が成り立つ。

なので、これは第2文型。

例文②

He is Takuya. (彼はタクヤです)

これも、He (彼) = Takuya (タクヤ)

よって、これも第2文型。

以上のように、

S (主語)

be 動詞

C (補語)

の形は第2文型の典型パターンだ。

では、次の

例文③

He became a lawyer. (彼は弁護士になった)

これはどうだろう。この文は

S (主語)

一般動詞

C (補語)

なので、典型パターンから外れる。でも、

He became a lawyer. (彼は弁護士になった)

わけだから、彼は今 He is a lawyer.といえる。

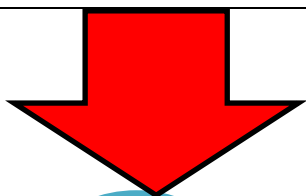
なので、**S (主語) = C (補語)** が成り立つ。

よって、これも第2文型。

※be 動詞を使わない場合に、第2文型か否かを判定する時は、S (主語) と C (補語) を be 動詞でつないで、不自然でなければ第2文型と考えるといい。

この例文で考えると、

He became a lawyer.



He is a lawyer.

と、不自然でない。なので、

He became a lawyer.は第2文型。

例文④

He looks young. (彼は若く見える)

これも、

S (主語)

一般動詞

C (補語)

だけど、

He is young. (彼は若い)

と be 動詞でつないでも不自然でない。

なので、

He looks young. は第2文型。

以上が第2文型。これを前提に、**第5文型**を検討する。

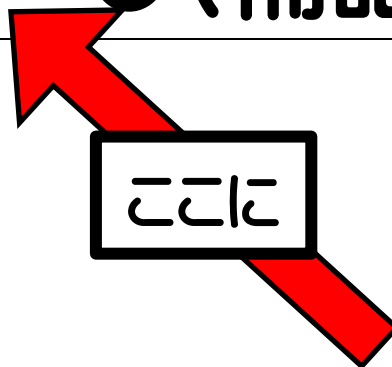
第5文型は、

S (主語) V (述語) O (目的語) C (補語)

から成り立つ。

第2文型の

S (主語) V (述語) C (補語)



O (目的語)

を追加した形だ。

この

S (主語)

V (述語)

O (目的語)

C (補語)

の、C (補語) の部分だが。

第2文型では、この C (補語) というのは、
主語に対する補語 という意味になる。

と説明したが

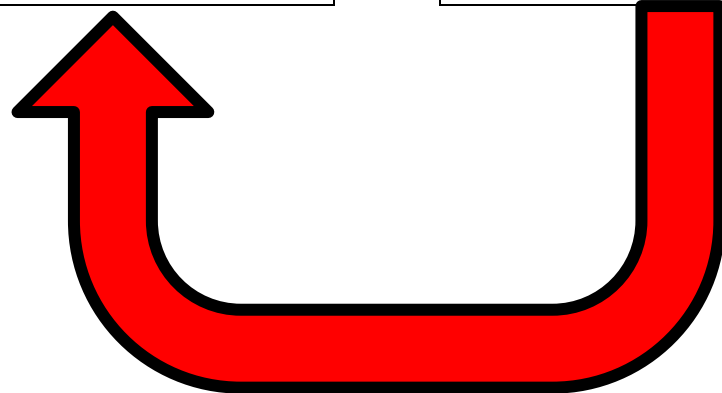
これに対して、第5文型の場合は、

S (主語)

V (述語)

O (目的語)

C (補語)



O (目的語)
に対する
C (補語)

目的語に対する補語だ

目的語に対する補語なので、、

○ (目的語) = C (補語)

が成り立つか？

これを検証することになる。

第2文型 S (主語) = C (補語)

第5文型 ○ (目的語) = C (補語)

以下、例文を検証していこう。

例文①

She calls me Takuya. (彼女は私をタクヤと呼ぶ)

まず私の部分。

この私がなぜ **me** かと言うと、

× She calls **I** Takuya.

× She calls **my** Takuya.

○ She calls **me** Takuya.

× She calls **mine** Takuya.

She calls **私** Takuya.

ここに入れるのは **〇 (目的語)** である。
なので、

目的格を
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
私	I	my	me	mine

→ She calls **me** Takuya.

と、第4文型のと看ときと同じ考え方が使える。

次に、O(目的語) = C(補語) が成り立つか。
これを見ていこう。

O(目的語) = C(補語) が成り立つかを検証するには、
O(目的語) と C(補語) を be 動詞でつないで、不自然でないかを検証すればいい。

なので、**me**(目的語) と **Takuya**(補語) を
be 動詞でつないでみる。

Me is Takuya.

↑ **me** のままでは不自然なので、**me** (目的格) を
I (主格) に変える

I am Takuya.

↑ 不自然じゃない。なので、
O (目的語) = C (補語) といえる。よって、
She calls me Takuya. は第5文型だ。

例文②

He made her angry. (彼は彼女を怒らせた)

まず**彼女**の部分。

この**彼女**がなぜ **her** かと言うと、

He made **彼女** angry.

↑
ここに入れるのは**目的語**である。
なので、

目的格を使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
彼女	she	her	her	hers

→He made **her** angry.

次に、O(目的語) = C(補語) が成り立つか。

Her is angry.

↓ her を主格に変えると

She is angry. (彼女は怒っている)

不自然じゃない。なので、

O(目的語) = C(補語)といえる。よって、

He made her angry.は第5文型だ。

次に、

例文③

I saw her crossing the street.

彼女が道路を横切っているのを見た。

これを考えよう。彼女は目的格なので **her** だ。

O (目的語) = C (補語) も検証しよう。

her is crossing the street.

↓ 主格に変えて

She is crossing the street.

彼女が道路を横切っている。

不自然じゃない。
なのでこの文は、

I saw her crossing the street.

S (主語) V (述語) O (目的語) C (補語)

と、第5文型といえる。

補語が「2語以上の単語が集まって1つの意味になる
(いわゆる句)」のパターンだ。

次は、例文④

「彼女は髪を切った。」

これを英訳しよう。

まず、「彼女は髪を切った。」

これを素直に訳すと、

She cut her hair.

彼女は
(主語)

切った
(述語)

髪を
(目的語)

と、第3文型になる。

でもこれは少し不自然だ。なぜなら
これだと、

「彼女が(自分自身で)彼女の髪を切った。」

(いわゆるセルフカット)という意味になる。

セルフカットもできないこともないけど、普通は髪は
美容院なり理容院なりで切ってもらうものだ。

だから、

「彼女は髪を切った。」は、

「彼女は髪を切ってもらった。」と考える。

よって、

「彼女は髪を切ってもらった。」

↑これを英訳することになる。

これを英訳するのに、便利な表現がある。それは、

have 物 過去分詞

↑この形

have 物 過去分詞の表現は汎用性が高く、

大きく分けて 3 つの使い方がある。

まず①

have my watch repaired

時計を直してもらおう

のように、

物を～してもらおう。

この文は時計を直してもらったわけだけど、時計を直してもらったらうれしい。

なので、この使い方を**受益型**と呼ぼう。

次に②

have my watch stolen

時計を盗まれる

物を～される。

と訳す形。時計を盗まれるのは嫌なことだ。
なので、この使い方を被害型と呼ぼう。

そして③

have my homework **done**

宿題をやり遂げる

物を～**遂げる**。

と訳す形。

単に、**宿題をやった**「I did my homework」に、
とどまらず、宿題をやって、そしてやり**遂げた**とい
うニュアンスを出す表現。

この使い方を**完了型**と呼ぼう。

①受益型 ②被害型 ③完了型の内、

①**受益型**を使って

「彼女は髪を切ってもらった。」を訳すと。

She had her hair cut.

彼女は
S(主語)

もらった
V(述語)

彼女の髪を
O(目的語)

切って
C(補語)

O(目的語) = C(補語) が成り立つかを
考えると

her hair is cut

彼女の髪は切られた
と不自然じゃない。

以上より、

「彼女は髪を切った。」→「彼女は髪を切ってもらった。」

は、

She had her hair cut.

となる。

例文⑤

Let's call it a day.

今日はこれぐらいにしておこう(これぐらいで終わろう)

これは、慣用表現(決まり文句)だけど、文法的に考えてみよう。

直訳すると、「それを1日と呼ぼう」となる。

それとは、「今までやってきたこと」で、それを1日と呼ぶわけだから
→「今日はこれで終わりにしよう」

この文の内、itは「それを」なので、
O(目的語)だ。だから

Let's call **それ** a day.

ここに入れるのは **〇 (目的語)** である。

なので、

目的格を
使う

	主格	所有格	目的格	所有代名詞
それ	it	its	it	its

また

O (目的語) = C (補語) になっているかチェックすると、

It is a day.それが一日だ。

と自然な文になる。

だから、

Let's call it a day.

は第5文型だ。

第4文型か第5文型かが紛らわしいパターン

最後に、この2つの例文を見てほしい。

例文⑥

She called me Takuya.

例文⑦

She called me a taxi.

例文⑥も例文⑦も、**She called me** までには同じなので、似たような文かと思いがちだ。

でも、この2つの文は全然違う。

何が違うかというと、**文型が違う**。

例文⑥は第5文型

She	called	me	Takuya.
S	V	O	C

彼女は私をタクヤと呼んだ。

例文⑦は第4文型

She	called	me	a taxi.
S	V	O	O

彼女は私にタクシーを呼んでくれた。

同じ call「呼ぶ」でも、文型の違いで意味が違ってくるパターンだね。

このことから分かるように、英作とか和文英訳をするときは、

どの文型で行こうか？

を先に決めておくと、作りやすい。

とりあえず第5文型はこれぐらいにして、次回から関係代名詞に入ろうと思います。

第3、4、5文型をじっくりやったから、たぶん関係代名詞もスツと頭に入ってくると思う。

では、今日はこの辺りで

Let's call it a day !